

# 床貼り替えチェックポイント

床を改修する場合、既存床の種類や状況、また剥がし貼り替えか、既存床に重ね貼りするののかによって工法を選ぶことが大切です。改装にあたって必要な確認事項をまとめた「床貼り替えチェックポイント」と、あらゆる既存床のケースを考慮した「下地づくり工

法」をマニュアル化し、より確かでスムーズな改修のために役立てています。

## A) 既存床の確認

1. 既存床材 種類 製造メーカー・商品名  
形状 寸法・厚さ  
現状 破損・摩滅・メンテナンス
2. 既存床材に使用された接着剤  
種類 エマルション形・溶剤形ほか  
色調 (接着剤層)  
接着強さ (“死にのり”の状態になっていないか)
3. 既存下地 種類 塗り床・木造下地ほか  
下地の強度

## B) 下地づくり

1. 剥がし貼り(既存床材を剥がす場合)  
古い接着剤の除去  
下地補修の有無・程度  
廃材処理の方法
2. 重ね貼り(既存床材を残す場合)  
床材の状態(破損、表面の状態等)  
捨て貼り、補修等  
施工後の床面の高さ

## C) 貼り替えに使用する床材料

1. 床材の選定 床材の選定  
選定床材と既存床材の相性(重ね貼り)  
選定床材と下地との相性
2. 接着剤の選定 直土間・水場まわり・結露箇所への配慮  
施工後長く放置されないか  
用途変更はないかなど

## D) 施工現場の環境

1. 什器関係 什器占有率の調査  
移動の有無と方法
2. 電話・電線関係 撤去、復元の有無
3. 建物内の設備使用 必要性の有無(エレベーター、電気、駐車場等)  
空調・火災報知機の確認
4. 作業日時 作業曜日・時間帯
5. 戸回り開閉の確認 施工後の床面高さ
6. 材料の搬入と保管 搬入方法・保管場所
7. 養生 施工前の養生  
備品、柱、壁ほか  
階段、エレベーターほか

## E) 協議事項

1. 騒音発生・ほこり・煙の発生
2. 接着剤の臭い
3. 通行制限・禁止
4. 備品(美術・骨董品、重要書類等)の事前移動とその保安
5. 集合住宅・事務所等の事前連絡の徹底
6. 集合住宅・事務所等への事後の挨拶

# 床貼り替えチェックポイント

## 床下地の種類と下地づくり工法

床材の工法仕様

床貼り替えチェックポイント

### 既存床を剥がして貼り替える工法

#### ビニル系床材 仕上げの場合

(アスファルト系接着剤残存下地)

クシ山や部分的なタマリに注意し、ケレン作業で残っている接着剤を取り除くのがポイント。



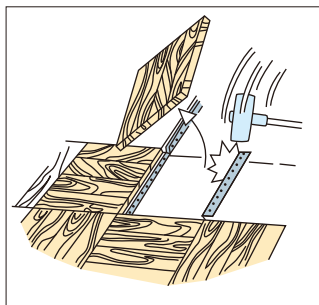
#### 塗り床仕上げの場合 (ウレタン系)

下地に残っていると処理が大変難しいので、床研磨機を用いて完全に除去することが望ましい。



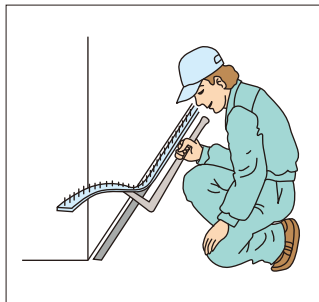
#### フローリング仕上げの場合

残ったフローリングブロックを撤去、留め金具も除去するか完全につぶし、平滑にする。接合地床の場合は防湿層等の有無を確認する。



#### カーペット仕上げの場合

不要なグリッパーをバール等で撤去。壊れた下地はフラッターで充填処理する。



### 既存床に重ね貼りをする工法

#### ビニル系床材を 下地とする場合 (ビニル床タイル/シート)

施工に制約を受けないカーペットタイルを使用するのがポイント。既存の床の上にそのまま敷き込み可能。ただし、浮上りやへこみ跡・収縮・ふくれ等の欠陥がある場合には、同一材で補修し、硬ねりフラッター等で充填処理する。



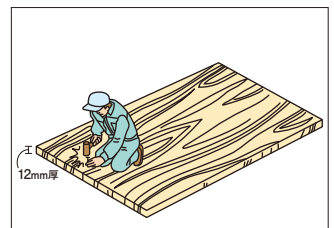
#### 塗り床を下地とする場合 (セメント系)

部分的な浮き、欠落、クラック等を、ケレン作業やフラッター、パテ等で完全に補修。



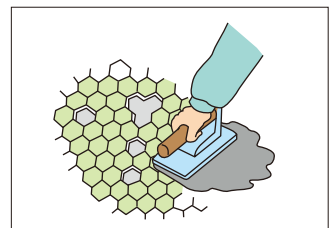
#### フローリングを 下地とする場合

既存のフローリングの反り、継ぎ目等の影響を受けないよう、12mm以上の耐水合板を上から打ちつけ下地とする。ただし、下地に湿気がある場合は適用できない。



#### 石材・セラミックタイル等を 下地とする場合

フラッターLCを打設し平滑にする。厚み等の関係で使用できない場合は、フラッタープライマーを塗布後、フラッター硬ねりを1~2回塗布することがポイント。目地部分にフラッター硬ねりを塗布し、その後フラッター標準ねりを二回塗布する。



#### アスファルトモルタルを 下地とする場合

浮きが部分的な場合は、電動ドリルで孔をあけ、グラウト材を注入。また、表面をワイヤーブラシ等で洗浄・荒しを行い、フラッターを全面塗布する。



#### 古いコンクリート・モルタル 下地の場合

下地の不陸が大きい場合は、フラッターLCで全面補修を行う。

